

# 最新事情

平成 24 年 4 月に開設された  
有明キャンパス



充実したプログラムで  
キャリア形成を後押しする

## 武蔵野大学

(東京都江東区)

平成26年に創立90周年を迎える武蔵野大学は、現代社会で活躍する人材を育てるため次々と学部を開設し、目覚ましい発展を遂げてきた。同校はキャリア教育にも力を入れており、平成22年には「全学共通基礎課程「武蔵野BASIS」」をスタートさせるなど、さまざまな取り組みを展開している。キャリア教育の狙いや影響、効果について就職・キャリア開発課でお話を伺った。

### 全学部横断のキャリアデザインで 『目覚め』と『気付き』を与える

武蔵野大学は大正13年に創立した歴史ある総合大学だ。八つの学部を擁する同学は有明と武蔵野に二つのキャンパスを持ち、両キャンパス合わせて約6500名の学生が学んでいる。

同学は平成22年に、学科単位ではなく、全学部横断で展開する全学共通基礎課程「武蔵野BASIS（ベース）」をスタートさせた。将来必要とされる『自己基礎力』を学生に身に付けさせることが、「武蔵野BASIS」の大きな狙いだ。建学精神を基礎とした倫理観や慈悲の心を学ぶ「建学」や、レポート・研究論文における論理性、表現力を磨くための「日本語リテラシー」などの必修科目で構成されてい

る。

今回は「武蔵野BASIS」の科目の一つである「キャリアデザイン」についてお話を伺った。就職・キャリア開発課の渡邊敏生主査は狙いをこう話す。

「『キャリアデザイン』では人生の歩き方や働くこと、生涯にわたる役割や生き方などを主観的に考える力の涵養を目標としています。学生たちは社会の最前線で活躍する方の講演を聞いたり、フィールドワークを通して人生を豊かに生きていくための力を身に付けます」。

内容は前半と後半で大きく異なる。「前半はオリエンテーション・ガイダンスを含め全部で10回。初回のオリエンテーションを除き、各学科に合わせて毎回違う分野で活躍するゲストに、働くことの意義や社会に求められる能力などについて語っていただきます（今年度は7名）。さまざまな人生を知ることが社会で働くことや生き方を考えるきっかけになり、学生は『行動しないとイケない』という『目覚め』を得ます」（渡邊氏）。

後半ではフィールドワークが中心となり、学生は四つのカテゴリーからなる10種類以上のプログラムから一つを選択し参加する。



教学事務部就職・キャリア開発課の  
渡邊敏生主査(左)と小金澤亜矢さん



2年生の選択科目「短期インターンシップ」。  
お世話になる企業へ初回訪問を想定した授業が行われた。  
お辞儀の練習や訪問先の電話の仕方などを練習

「被災地を訪れて畑の復旧作業や現地の方と触れ合うボランティア活動を行ったり、社会の第一線で活躍する人の話を聞くために海外もしくは国内の企業を見学するなど、内容はさまざまですが、どれも体験を重視したプログラムです。体験することで学生たちは多くの「気づき」を得ます。例えば、専門知識や語学力の必要性に気付けば、その後の大学生活で何を学べばいいのかがおのずと明確になります」（渡邊氏）。

学生に気づきを与えるため、就職・キャリア開発講座を中心とする教職員は全力でサポートする。「全てのプログラムで必ず教職員が引率します。参加する学生の数は約1600名。ほ



「短期インターンシップ」を  
受講している政治経済学部経営  
学科2年の田中大貴さん



## 挑戦すること 足りない力に気付く

とんどのプログラムが泊まりがけなので、少人数のグループに分けて行います。学生と共に過ごし、活動を見守る。総合大学では珍しい取り組みだと思えます。1年生全員を外に出すのは並大抵のことではありませんが、学生のためなら労力は惜しみません」と渡邊氏は意欲を見せる。

同学では2年次以降のキャリア教育にも力を入れており、さまざまな選択科目がある。

とりわけ半期科目の「短期インターンシップ」は、前期と後期合わせて約200名の学生が選択する人気科目だ。前期は夏季休暇に、後期は春季休暇に2週間以上のインターンシップに参加する。参加するに当たり学生は社会人としての心構え、ビジネスマナー、企業研究、履歴書の書き方などを授業で学ぶ。

取材時、学生たちはちょうどビジネスマナーを学んでいるところだった。全員がスーツ姿。ビジネス用のバッグを持ち、男子学生はネクタ

イを締め、女子学生はパンプスを履きメイクも完璧だ。後期の受講生は100名強。実技練習を伴うため、二クラスに分かれて授業が行われていた。

この日のテーマは「企業への初回訪問」。実習先に訪問のポイントメントを取るところから、実際に訪問し担当者の話を聞くところまでに必要な立ち居振る舞いと言葉遣いを確認する。特にビジネスにおける言葉遣いは言い慣れないためか、何度も練習が続いた。

電話で担当者呼び出すときの「私、武蔵野大学の〇〇と申します。人事部の〇〇さんをお願いいたします」。訪問先の受付での「私、武蔵野大学の〇〇と申します。本日、人事部の〇〇様と15時にお約束をいただいております」など、学生たちは繰り返し口を動かしている。教室全体から「身に付けた」という必死さが伝わってくる。

なぜ、2年生という早い時期にインターンシップに参加しようと思ったのか。政治経済学部の田中大貴さんと山内香織さんは次のように話す。

「卒業後は公務員として、地域活性化の業務に携わりたいと考えています。自分が希望する職場を間近で見ても、業務を経験できるのはとても貴重なことですし、社会で必要とされるビジネスマナーの基本を学ぶことができるのでこの授業を選択しました」（田中さん）。

「2年生のうちにインターンシップを経験し、

「秘書技能検定講座準1級」。  
講座は座学だが、  
初めと終わりには必ずお辞儀を行う

「秘書技能検定準1級講座」を受講している  
政治経済学部政治経済学科2年の山内香織さん(左)と  
人間科学部人間科学科3年の菊地あかねさん



自信を付けたいと思い選択しました。3年生に進級したらこの経験を生かして、各企業が行っているインターンシップに参加するつもりです(山内さん)。  
それぞれの目標を持ち講義に臨む学生たち。2年生という早い時期に、さまざまな経験を積み、重宝しているようだ。

「実習を終えた学生のほとんどが、悔しい思いをしたり打ちのめされて戻ってきます。それでいいのです。ただ、そこで立ち止まるのではなく、足りないものに気付いたのであればそれを補う努力が必要です。早い時期により多くの気付きが得られれば、卒業までに大きく成長することが出来ます。学生たちが成長して自信を持って卒業できるよう、挑戦できる数多くの機会を与えることがわれわれの使命だと考えています」(渡邊氏)。

### やり遂げることで 自信が得られる

資格講座の開講も学生にチャレンジの機会を与える場となっている。平成25年度に開講した講座は、簿記やTOEIC、SPI対策など10種類に及ぶ。

「秘書技能検定2級講座」「秘書技能検定準1級講座」もその一つだ。両講座は検定に合格すれば2級は1単位、準1級は2単位が認定される。就職・キャリア開発課の小金澤亜矢さんは秘書検定の魅力についてこう話す。

「秘書検定は身近な内容が多く、学生にとつてとっつきやすい資格だと思います。特に2級は、学生が『やればできる』という成功体験をつかむのにちょうどよいレベル。しかし、準1級はそう簡単ではありません。高度なレベルが求められるのももちろん、面接試験があるため、緊張する場面できちんとした立ち居振る舞

いや発言をすることが必要とされます。これは就職面接でも同じなので、それを突破し準1級に合格した学生にとっては大きな強みとなり、自信にもつながるでしょう」。

実際に「秘書技能検定準1級講座」を受講する学生に話を聞いてみた。

先ほどインターンシップの話を聞かせてくれた山内さんも受講生の一人。「社会人として知っておくべき一般常識を学びたいと思い受講しました。敬語や名刺交換はインターンシップの授業でも学びますが、お茶の出し方や郵便物の出し方などは秘書検定ならではの内容です。検定で学んだことは早速、実習で役に立ちそうです」(山内さん)。

人間科学部人間科学科3年生の菊地あかねさんは「2年生のときに秘書検定2級に合格しました。その時は独学で挑戦したのですが、準1級はさらにレベルが上がるため、独学では難しいと判断し受講することにしました。講座のメリットは先生が記述問題の解答を添削してくれること。『ここを直せば正解になります』と分かりやすくチェックしてもらるので、同じミスを繰り返えさずに済みます。筆記試験と面接試験に合格して、自信を持って就職活動に臨みたいですね」と笑顔を見せる。

さまざまなことにチャレンジし、多くの気付きを得て成長する学生たち。「自信を持って卒業してもらいたい」という教職員の願いはしっかりと届いているようだ。